

改善提案 自己採点用紙

全14項目・100点満点・合格65点
実採点データ:4期45名(2022-2025年)

データ分析から改善提案をまとめる研修で、四期にわたって使ってきた採点表があります。この用紙は、その配点と45名分の実際の採点結果をそのまま公開したものです。自分の提案書を一枚ずつめくりながら、右列の「典型的な失点」に心当たりのあるものへ印を付け、いちばん右の欄に自己採点を書き入れてください。提案が通らない理由は、たいてい内容の良し悪しではなく、この十四項目のどれかが単純に書かれていないことです。

45名平均 69.4 点 最低51～最高81点。九十点も四十点も出ない。差がつくのは限られた項目だけ。	満点者ゼロの項目 7 ／14項目 半数の項目は、45名の誰ひとり満点に届いていない。取りこぼしではなく構造的な難所。	四項目に集中する失点 13.1 点 三～五・七番だけで失う点。提案書側の失点の六割が「分析から施策へ」の接続部にある。	書き忘れの代償 0 点 八・九番は書き忘れると零点。実例が複数ある。合わせて十点、書けば確実に拾える。
--	---	--	--

番号	項目	配点	平均	最高	典型的な失点	— 心当たりのあるものに印を	自己採点
----	----	----	----	----	--------	----------------	------

第一部 提案書そのもので採点される九項目 70点／45名平均 49.6点

一	与件の整理	5	4.4	5	☐ データを載せたページに集計期間が書かれていない。冒頭を読んでも「何を・いつ・なぜ」分析したのかが分からない。	
二	データ取得	5	3.8	5	☐ 指標の定義を取り違えている（人数とセッションの混同、離脱と直帰の混同など）。 満点は45名中2名のみ。	
三	データ分析	10	6.9	9	☐ グラフを貼っただけで気づきが書かれていない。 ☐ 提案に関係のないデータまで載せて論点がぼやけている。	
四	気づきと考察	10	6.6	9	☐ 仮説が仮説のまま置かれている。手元のデータで裏を取れるのに、確かめずに次のページへ進んでいる。	
五	分析からの施策	10	6.6	8	☐ 分析と無関係な思いつきの施策が混ざっている。 ☐ どの気づきがどの施策になったのかの対応表がない。	
六	施策詳細	10	7.9	9	☐ 施策が文章の箇条書きだけで終わっている。ビフォー／アフターの図や画面イメージがない。	
七	施策の説得力	10	6.8	9	☐ 期待効果の試算がない（対象母数×改善率、年間インパクト換算）。実行するかどうかを判断できない。	
八	施策の優先順位	5	3.4	5	☐ 優先順位そのものがない（ 零点 ）。 ☐ 順位はあるが「重要だと思うから」で、基準が主観的。	
九	施策の評価	5	3.3	5	☐ 「効果を見ます」で終わっている（ 零点 ）。施策ごとの評価指標・計測方法・評価時期が決まっていない。	

第二部 説明する場で採点される五項目 30点／45名平均 19.8点 ※提案書だけを見る場合は採点対象外

十	内容との齟齬	5	3.8	5	☐ 重要なことを口頭だけで補足している。資料は口頭説明なしで独立して読めなければならない。	
十一	資料のみやすさ	10	7.5	10	☐ 気づきを書く位置がページごとにバラバラ。 ☐ 画面キャプチャに、どこを見ればいいのかの印がない。	
十二	時間内の完了	5	3.6	5	☐ 持ち時間を超過。 四割が満点を落としているが 、リハーサル一回で確実に取れる五点。	
十三	コミュニケーション	5	1.4	3	☐ 最初から最後まで一方通行。問いかけも、視線を誘導する一言もない。 45名の最高が3点の最難関。	
十四	質疑応答	5	3.6	4	☐ 回答に根拠がない、または質問の意図を確認せずに答え始めている。	
合 計		100	69.4	81	合格ライン65点。印が三つ以上付いたなら、内容ではなく 書き漏らし で落ちている見込みが高い。	

※ 平均・最高は、2022年から2025年にかけて実施した四期の最終提案レポート45名分の実採点値(匿名化済み)。合格率は91%、平均69.4点。つまり大半の提案は「落ちはしないが、突き抜けもしない」水準に収まっている。

※ 特定の分析ツールに依存する項目は二番のみで、他の十三項目はツールを問わず使える。

十四項目の採点基準と、点を取るための条件

数値は「配点／45名平均／45名最高」
配点の重みは、割くべき時間の配分と読み替えてよい

第一部 提案書そのもので採点される九項目 70点

一 与件の整理 5点／平均4.4／最高5	対象サイト・分析期間・分析の目的を冒頭で示し、何をどの範囲で見た報告なのかを読み手に把握させる。 加点 三点セットに加えて、デバイスや除外条件などの前提まで書く。データを載せた全ページに集計期間を再掲する。ほぼ全員が4点以上を取る項目のため、落とすと相対的に不利になる。
二 データ取得 5点／平均3.8／最高5	施策を導くのに必要なデータを、正しい指標定義で取得できているか。数値そのものの誤りも見ろ。 加点 定義の取り違えが一つでもあれば4点で頭打ち。 <u>イベント／セッション／ユーザーのどの単位で見ろべきかを設問ごとに選り分けて、初めて満点に届く（45名中2名）。</u>
三 データ分析 10点／平均6.9／最高9	取得したデータから定量的な気づきを導いているか。グラフの有無ではなく、数値の差分を読めているかを見る。 加点 セグメント比較・時系列・ファネルなど複数の切り口を重ねる。一ページに必ず一つ気づきを書き、提案に効かないデータは載せない。枚数ではなく一枚の密度で8点以上に届く。
四 気づきと考察 10点／平均6.6／最高9	気づきを深掘りして原因の特定まで進めているか。気づきと考察が区別されているか。 加点 「気づき→深掘り検証→原因」の三段を一本の線でつなぐ。仮説を置いたら必ず手元のデータで裏を取る。深掘りが一段で止まると6～7点帯から出られない。
五 分析からの施策 10点／平均6.6／最高8	施策が分析結果から導かれているか。根拠のない思いつきが混ざっていないか。 加点 全施策を気づきと一対一で結び、その対応関係を表にして資料へ載せる。10点満点で9点すら出していない最難関。読み手が対応を探さなくてよい構成にすることが唯一の突破口。
六 施策詳細 10点／平均7.9／最高9	改善案の実装イメージが伝わるアウトプットになっているか。 加点 全施策にビフォー／アフターのモックかワイヤーを付ける。文章だけの施策が一つ残れば8点止まり。10点項目で最も平均が高く、手を動かせば確実に稼げる。
七 施策の説得力 10点／平均6.8／最高9	読み手が「これはやろう」と判断できる材料が揃っているか。 加点 対象母数×改善率で期待効果を試算し、年間インパクトへ換算する。数字を置けない施策は事例や競合比較で代替する。実行を判断できるかどうかが分岐点。
八 施策の優先順位 5点／平均3.4／最高5	明示された根拠のもとづいて、施策に順番が付いているか。 加点 インパクト×工数のマトリクスか一覧表にし、判断基準を文字で書く。「重要だと思うから」は主観として減点。書き忘れれば零点、書けば確実に取れる最も安い五点。
九 施策の評価 5点／平均3.3／最高5	実施したあと、成否をどう判断するかが決まっているか。 加点 施策ごとに「直接評価指標・計測方法・評価タイミング」の三点セットを書く。施策一覧に列として持たせると漏れない。「効果を見ます」だけでは0～2点。

第二部 説明する場面で採点される五項目 30点

十 内容との齟齬 5点／平均3.8／最高5	資料の記載と、口頭で説明した内容が一致しているか。 加点 話す予定の重要ポイントを事前に資料へ書き戻す。資料が口頭説明なしで独立して読め、かつ話す内容がすべてそこにある状態が満点。
十一 資料のみやすさ 10点／平均7.5／最高10	読み手が迷わず追える資料設計になっているか。 加点 気づきの記載位置を全ページで固定し、キャプチャは赤枠やハイライトで視線を誘導する。定量課題と定性課題を混ぜず、サマリー→詳細の順に構成する。満点は45名中2名。
十二 時間内の完了 5点／平均3.6／最高5	持ち時間内にプレゼンを終えられたか。時間内なら満点、超過すると大きく落ちる。 加点 通しのリハーサルを一回やるだけで取れる。45名の四割が満点を落としており、準備の有無がそのまま点差になっている。
十三 コミュニケーション 5点／平均1.4／最高3	聴き手への働きかけがあるか。ただの読み上げになっていないか。 加点 45名の最高が3点、平均1.4の最難関。冒頭で「ここを見てください」と視線を誘導し、要所で「ここまでよろしいですか」と確認を入れる。この二つだけで平均を大きく上回る。
十四 質疑応答 5点／平均3.6／最高4	質問に的確かつ根拠を持って答えられているか。 加点 質問の意図を一度確認してから、根拠となるデータのページに戻って答える。簡潔さと根拠の両立が4点の条件。満点は45名中ゼロ。

まず八番・九番を埋め、次に五番の対応表を作る。この三つで最大二十点、いずれも書き方が決まっておろ分析をやり直す必要はありません。
その先の三・四・七番は、分析の進め方そのものを変える必要があります。ここを扱った本編を準備中です。

小 川 卓
HAPPY ANALYTICS
happyanalytics.co.jp